

クリエイティブ・インダストリー・ショーケース in 関西2008を開催

クリエイティブ・インダストリー・ショーケース in 関西(C r I S(クリス)関西)は、コンテンツの新たな利活用とグローバルなコンテンツ人材創出を実現する舞台として、人材の発掘・育成・交流、マーケットの形成などのイベントを集中的に実施するもので、2007年から開始された取り組みである。

2008年は、10月19日から11月3日までの間、関西の特徴を生かし、さまざまなジャンルのイベントが各地域で展開された。これらの取り組みについて紹介する。

今回の特徴

クリス関西2008は、東京で開催されたJAPAN国際コンテンツフェスティバルのパートナーイベントとして、産学官連携のもと関西のコンテンツ産業の振興を目的に、第2回目を開催した。

今回の特徴としては、新たに奈良県が加わり、地域が拡大したこと、昨年の6つの事業からダンスや音楽、食文化という新たな分野が加わって、13事業に増え、多彩なイベントに発展したことがあげられる。この広がり背景には、経済産業省がコンテンツについて「人間の感情・五感に訴えかけるもの、働きかけるものすべて」と本年度新たに定義したことがある。

この幅広いコンテンツ分野の中でもクリス関西2008では、産業用コンテンツに特化し、医療・介護・ものづくり・教育等の分野で利用可能かつ実用的なコンテンツを取りそろえ、新たなビジネスマッチングをめざしたBtoBイベント“クリエイティブビジネスフェア2008”を開催した。

関経連が10月7日に発表した「関西ビジョン2020」の中でも、食の重要性を再認識し、加えてマンガをはじめとするサブカルチャー産業を、次

世代を担う産業として重点テーマのひとつに位置づけている。ビジョンでは関西独自のコンテンツをもとに、世界に向けて訴求力のある仕掛けをプロデュースしていく取り組みを「アクションプラン」のひとつとして掲げている。このクリス関西の活動は、食や漫画をはじめとする多彩なイベントを通じて次世代クリエイターの育成やコンテンツ産業の新たな可能性を創造しており、まさにビジョンに掲げた活動の具体事例といえる。

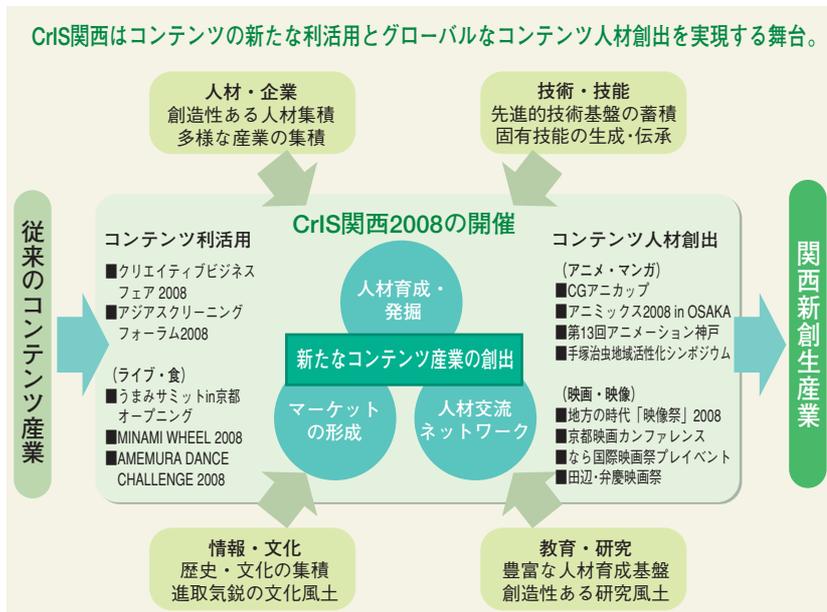
オープニングセレモニー

10月19日、クリス関西2008のス

タートを飾るオープニングセレモニーが、前回同様、東映太秦映画村内、レストランCHANBARAにて開催された。

下妻実行委員長(関経連会長)による開幕宣言のあと、各イベント紹介では、河瀬直美ら国際映画祭実行委員会会長が代表して挨拶した。続いて、マルチメディアアーティストで、ハリウッド映画の特殊メイクやエアロスミスなど一流ミュージシャンのミュージックビデオを手掛けたことでも知られるスクリーミングマッドジョージ氏をゲストクリエイターに迎えてのトークや新進気鋭の若手クリエイターによるプレゼンテーション

〈C r I S 関西2008の基本コンセプト〉



が行われた。最後に、山田京都府知事が甲冑を着た織田信長に扮(ふん)して登場する等、盛り沢山の内容で300人を超える来場者を沸かせた。



オープニングセレモニー

クリエイティブビジネスフェア2008

10月28～29日、クリエイティブビジネスフェア2008がマイドームおおさかにて開催された。

メインの展示・商談会「クリエイティブビジネス・マーケット—大阪創造取引所」では、優れたコンテンツ・デザイン・先端技術やアイデアを有するコンテンツ関連企業や大学、研究機関、そして行政まで多彩な企業・団体が38社集結した。クリエイティブティあふれる企業との商談設定や委託・提携先等とのマッチングを行い、新たなビジネスチャンス、出会いの場として大盛況であった。

その他にも、クリエイターのネットワーク形成型セミナー「コラボレーションカフェ」、コンテンツ業界の就職フェア「クリ博就職フェスタ」、クリエイター育成と地域発コンテンツビジネスの創出をめざすセミナー「アジアスクリーニングフォーラム2008」等、クリエイティブに

かかわる計8つの連携イベントを同時開催することで、クリエイター・プロデューサー、出展者・来場者といったジャンル・立場を超えて、受発注や提携をはじめ、プロジェクト組成、人材育成等、さまざまな創造活動が行われ、新しいコンテンツビジネスモデルの構築をめざした。



テープカット



展示ブース



商談会

田辺・弁慶映画祭2008

11月1～3日の間、田辺市の紀南文化会館大ホールにて、田辺・弁慶

映画祭2008が開催された。

田辺・弁慶映画祭は日本だけでなく、韓国や中国等、アジアの若手監督の作品を対象としたコンペティション部門のある本格的な映画祭である。また、映画を楽しむことにかけてはエキスパートの映画検定一級合格者達が全国から駆けつけ、審査する唯一の映画祭である。作品への思いやそれぞれのシーンに込められた意図等を監督から直接聞くことができるティーチインでは、制作者と審査員との間で活発な質疑応答が繰り返され、本映画祭の醍醐味を味わうことができる特別な演出となった。

審査の結果、中国から出品されたガオ・チュンシュ監督の「Old Fish～チチハルの時限爆弾」が特別審査員賞(和歌山県知事賞)と映検審査員審査員特別賞(田辺市長賞)の2賞をダブル受賞した。

手塚治虫生誕80周年記念地域活性化シンポジウム

11月3日、宝塚市立文化施設ソリオホールにて、「手塚治虫を超えて未来を拓こう」と題し、地域活性化シンポジウムが開催された。

漫画家の松本零士氏と松谷孝征手塚プロダクション社長による基調対談の後に行われたシンポジウムでは、漫画家を志す5人の学生達に対し、松本零士氏から、起承転結まで1作品を書き上げることの大切さや、目的意識を持って、だれのために、何を思って書くのかを明確にするよう、アドバイスがあった。

(産業部 加宮義隆)